

環境ホルモン学会第 21 回研究発表会 森田賞受賞者

第 21 回の研究集会では一般口演がなく、すべてポスター発表となりました。その中で特に大学院レベルの若手研究者の中から 3 演題のポスターを森田賞として表彰致しました。

加藤 大典 (京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター)

「抗うつ薬の検出を目的とする蛍光基質を用いた *in vitro* アッセイの下水処理水への適用検討」

久保 静花 (神戸大学大学院農学研究科応用動物学講座動物分子形態学分野)

「無毒性量のネオニコチノイド系農薬曝露による行動影響の性差」

田中 雄大 (宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター)

「ミジンコの幼若ホルモン受容体を用いた *in vitro* における幼若ホルモン活性検出法の確立」

(五十音順)

森田賞とは:

森田賞命名の経緯ですが、理事会へ本年度研究集会にポスター賞が設定されることが実行委員会より情報提供され、併せて理事会メンバーにその審査協力依頼がありました。理事会では以前より第 2 代環境ホルモン学会会長として学会を長く牽引されてこられた森田昌敏先生に敬意を表し、何らかの形で謝意を示したいと意向がありました。今回、理事会メンバーへのポスター賞審査協力依頼に際し、理事会内で本年度ポスター賞を森田賞と命名表彰することが急遽提案されました。本提案を理事会で承認後、実行委員会に提案致しました。結果として本年度優秀ポスターを森田賞として表彰することが実現することとなりました。尚、来年度以降の森田賞の取り扱い詳細につきまして理事会等で検討頂くことお願いしております。